



美しい 県土づくりNEWS

2017年

1月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第150号
平成29年2月7日発行
編集 県土整備企画室



三陸復興

目次

- 2 (主)重茂半島線大沢～浜川目工区(仮称)大沢トンネルが貫通!
- 3 平成28年発生災害の災害査定が終了!
- 4 JAL「新 JAPAN PROJECT 岩手」始動!
- 5 宮古・室蘭フェリー航路開設をPR!
- 6 ハード・ソフトの両面から防災意識を共有
～いわて三陸復興フォーラム「安全の確保」報告会～
- 10 県土整備部の職場紹介～建築住宅課～
- 11 県土整備部の職場紹介
～県北広域振興局土木部二戸土木センター～

(主)重茂半島線(仮称)大沢トンネル貫通!

山田町

～平成29年度の供用に向け大きく前進～

県が「復興関連道路」として下閉伊郡山田町大沢～浜川目地内で整備を進めている主要地方道重茂半島線大沢～浜川目工区(以下、「本工区」という。)において、平成29年1月10日に、(仮称)大沢トンネル(L=265m)が貫通しました。県が復興関連道路として整備を進めている(主)重茂半島線のまちづくり連携道路整備事業では、初めてのトンネル貫通となります。



発破によりトンネルが貫通!

平成28年7月の掘削工事着手から約6か月での貫通となりました

【復興関連道路】

(主)重茂半島線大沢～浜川目工区 (仮称)大沢トンネルが貫通!

～ つぎこそ!復興のために 造ろう!復興のその先へ ～

沿岸広域振興局土木部宮古土木センター

(仮称)大沢トンネルは、平成28年7月11日に安全祈願祭を開催し、これまで、国道45号側から本体工の掘削工事を進めてきました。

県関係者や工事関係者等約30名がトンネル貫通の瞬間を見届け、貫通後には、宮古土木センターの久保田道路整備課長の音頭により、参加者一同の盛大な万歳三唱で、貫通を祝いました。今後は、トンネル内部をコンクリートで覆う工事や、排水施設の設置等を進めていきます。

今年は、“復興の先を見据えた地域振興に取り組んでいく重要な年”であり、本工区についても平成29年度の供用に向けて全力で事業を推進し、復興の更なる展開につなげていきます。



起点側(国道45号側)坑口部



終点側(大沢小学校側)坑口部



トンネル貫通を喜ぶ工事関係者ら

【(主)重茂半島線大沢～浜川目工区の事業概要】

県では、岩手県東日本大震災津波復興計画に基づき、三陸沿岸地域の復興と安全・安心を確保し、災害に強く信頼性の高い道路ネットワークを構築することを目的として、三陸復興道路整備事業を実施しています。

(主)重茂半島線は、三陸復興道路整備事業の「復興関連道路」に位置付け、県が重点的に整備を進めています。このうち、下閉伊郡山田町で事業を進めている大沢～浜川目工区は、多重防災型まちづくり連携推進事業(まちづくり連携道路整備事業)として山田町が施行する漁業集落防災機能強化事業、土地区画整理事業等の復興まちづくりと連携し、東日本大震災津波と同等の津波が発生した場合でも浸水しない道路を整備することにより、高台に整備される3箇所の住宅団地(大沢第1住宅団地、大沢第2住宅団地、浜川目住宅団地)をつなぎ、災害時における確実な緊急輸送や代替機能等を確保します。

事業概要図



平成 28 年発生災害の災害査定が終了！

砂防災課

平成 28 年発生災害に伴う道路、河川等の公共土木施設の国による災害査定が、**台風第 10 号等に伴う平成 28 年 11 月 7 日から平成 29 年 1 月 27 日までの延べ 9 週にわたる災害査定**をもって、全て終了しました。

平成 28 年発生災害に伴う査定決定額は、県施設が 597 箇所の約 243 億円、市町村施設が 1,301 箇所の約 207 億円で、**県全体では、1,898 箇所の約 450 億円**と、平成 23 年の震災を除くと、過去に最も被害の大きかった平成 11 年の約 378 億円を上回るものとなりました。

災害査定の状況及び今後の取組

台風第 10 号等の4つの異常気象（8/16-19 台風第 7 号、8/21-24 台風第 9 号及び豪雨、8/26-27 豪雨、8/29-31 台風第 10 号）にかかる国による災害査定が、**1 月 27 日までに延べ査定班 93 班、事務班 26 班の体制のもと終了**しました。

今回の災害査定では、災害査定を行う査定官と立会官として、国土交通省や財務省をはじめ、東北各県の国出先機関から多くの職員に参集いただき、また、申請する県・市町村においても市町村等から応援職員を派遣いただくなど、多大なご協力をいただきました。
関係各位に御礼申し上げます。

災害査定の終了に伴い、**今後、本格的な災害復旧工事がはじまります**。今後とも、市町村及び関係機関と連携を図りながら、公共土木施設の早期復旧に向けて全力で取り組んでいきます。

査定決定額の内訳（国土交通省所管）

	県施設		市町村施設		合計		
	箇所数	金額(百万円)	箇所数	金額(百万円)	箇所数	金額(百万円)	
水管理・国土保全局所管	588	23,596	1,290	20,551	1,878	44,147	
内訳	河川	271	11,866	490	6,528	761	18,394
	海岸・砂防	3	92			3	92
	道路	301	11,352	762	12,173	1,063	23,525
	橋梁	13	286	34	1,297	47	1,583
	下水道			4	553	4	553
その他	9	703	11	158	20	860	
合計	597	24,299	1,301	20,708	1,898	45,007	
(うち台風第10号等関連)	592	23,631	1,299	20,669	1,891	44,300	

JAL「新 JAPAN PROJECT 岩手」始動！

空港課

2月の1か月間、岩手県とJALが共同し多彩なプランを実施 国内、海外へ向けて岩手の魅力発信に取り組みます！

- 1** 国内線ファーストクラスで県産食材を使った機内食を提供
- 2** 機内誌「SKYWARD」2月号で岩手県特集
- 3** JAL機内ビデオで冬の八幡平を紹介
- 4** JAL会員誌、国際線ファーストクラス機内誌「AGORA」1・2月合併号で「月の輪酒造店」を紹介
- 5** 外国人向け情報サイト「JAL Guide to Japan」で観光情報を多言語で紹介
- 6** 旅の提案サイト「JAL旅プラスなび」で情報発信
- 7** JALダイナミックパッケージ「ふるさと応援割」キャンペーン
- 8** ボーナスマイルや県産品と交換などのマイレージキャンペーン

JAL国内線 ファーストクラスで岩手県の食材を使用した夕食を提供

ホテルメロポリタン盛岡「対い鶴(むかいづる)」の料理長、須藤義太郎氏がプロデュース。

羽田⇄札幌、伊丹、福岡、沖縄の4路線のうち、17:00以降の出発便ファーストクラスで提供されます。



県産米「銀河のしずく」をはじめ岩手県の海の幸、山の幸をふんだんに使用した、上旬、中旬、下旬3つのメニュー



知事もファーストクラス席で試食

1月23日 岩手県とJALで共同記者会見を行いました！

プロジェクトの実施に当たり、1月23日、知事とJAL藤田直志副社長が共同で会見を行いました。

会見では、八幡平の見どころを紹介する機内ビデオが上映され、知事が国内線ファーストクラスで提供される特別メニューを試食するなど、プロジェクトの取組を紹介。藤田副社長は、「地域の役に立ち、地域の元気を一緒につくりたい」とコメントしました。



宮古・室蘭フェリー航路開設をPR!

港湾課

平成29年1月26日盛岡市内で、宮古港と室蘭港を結ぶフェリー航路（平成30年6月開設予定）の開設に向けた「宮古・室蘭フェリー航路セミナーin盛岡」（宮古港フェリー利用促進協議会主催）を開催しました。

自治体、経済団体、観光物流業者の関係者ら約160人が出席し、講演やパネルディスカッションを通じて、航路開設のPRなど、利用機運の醸成を図りました。

講演①「室蘭港が魅せる新たな発見」

室蘭市 小泉副市長

- 10年ぶりのフェリー航路開設に期待。
- 開設に向けて平成29年度、フェリーターミナルビルを再整備。
- 地球岬、むろらん3大グルメ（カレーラーメン、やきとり、クロソイ）、室蘭夜景等の見所を紹介。

講演②「北海道発着フェリーの現状と宮古・室蘭航路の展望について」

川崎近海汽船 岡田フェリー部長

- 10時間の航海時間が丁度よい。
- 宮古発は宅配貨物や札幌ドームでのコンサート機材等を見込む。
- 他の交通機関と連携した観光客集客プランも考えていきたい。

講演③「宮古・室蘭フェリー航路による新たな可能性」

札幌大学 千葉教授

- 新聞報道等により、航路開設の認知度、期待は高まりつつある。
- 岩手→新千歳→世界への物流の提案。

パネルディスカッション「宮古・室蘭フェリー航路開設による岩手県への効果」

コーディネーター 千葉教授

パネラー

岡田フェリー部長
今井教授（岩手大学）
田村社長（岩手県産株）
佐々木旅行部長
（岩手県教互センター）

パネルディスカッションでの主な発言

- トラック運転手の労務管理に貢献できる。地元利用が航路維持・拡大のポイント、新千歳からのインバウンドも取り込みたい。（岡田部長）
- 道内の大学、企業との連携等人的交流が広がる可能性あり。（今井教授）
- 北海道との物流量が拡大することが地場企業にプラスに働く。北海道に来ている外国人観光客をフェリーで岩手へ誘導することを考えてほしい。（田村社長）



★宮古・室蘭フェリー航路（平成30年6月開設予定）

1日1往復（片道10時間）

宮古発 08時00分 - 室蘭着 18時00分

室蘭発 20時00分 - 宮古着 翌06時00分

船名 シルバークイーン（川崎近海汽船）

車両積載能力 トラック 69台 乗用車 20台 旅客定員 600人

ハード・ソフトの両面から防災意識を共有 ～いわて三陸復興フォーラム「安全の確保」報告会～

県土整備企画室

平成29年1月20日（金）、岩手県の復興の取組について情報発信する「いわて三陸復興フォーラム」を開催し、県土整備部、総務部、政策地域部、教育委員会では、「安全の確保」をテーマとした報告会を開催しました。

開会に当たっては、平野県土整備部副部長から、今後起こり得る災害への備えとして、安全を守るハード整備と併せ、地域防災の意識づくり・体制づくりも大切であることなど、挨拶を行いました。

報告会では、岩手大学地域防災センターの越野修三客員教授による基調講演や、地域や学校で防災教育などに取り組む方々によるトークセッション、派遣応援職員による復興の取組状況の報告を行いました。



平野副部長によるあいさつ

基調講演

「地域防災力の強化に向けて～東日本大震災、台風10号の教訓から～」

越野 修三 氏（岩手大学地域防災研究センター客員教授）

1. 東日本大震災津波の教訓

「なぜ多くの犠牲が出たのか？」

震災後に釜石市で行ったアンケート調査によれば、揺れの後もすぐに逃げようと思わなかった人が約4割。

自分は大丈夫だと都合の悪い情報を小さく見積もる心理的なメカニズム（正常化の偏見）が避難行動を遅らせる。

一方で、釜石東中学校や鶴住居小学校では学校にいた生徒全員が無事避難し、「釜石の奇跡」とも呼ばれた。

これは日頃からの教育、訓練の成果によるもの。正常化の偏見に対抗するには正しい知識を学んで繰り返し、習性化するしかない。

2. 台風10号の教訓

岩泉町では250ミリ以上の雨が降ったが、50ミリを超える激しい雨が降ると何が起きるかというイメージがなく、避難準備情報を出した後も避難した住民は少ないなど、情報に対する理解が足りていなかった。

岩泉町や久慈市では橋に流木が堆積しダム化、溢水、浸水した。こういった例が近年多く、平成25年豪雨で玉山地区が孤立したときも同様の事態となった。

自治体へのヒアリングの結果見えた課題として、経験がない事態へのイメージ不足、情報を集積し分析するエキスパートの不在、災害対応組織が平常業務の延長戦のまま、といったことが挙げられる。

3. まとめ

（1）地域防災力の強化…備えあれば憂いなし

- それぞれの立場で災害を知りイメージをもつ
- 事前に対処法を準備
- 実践に向けた訓練

（2）災害が起きたら…決断と実行

- 自分の命は自分で守る
- 「まさか」ではなく「ひょっとして」
- 全組織が連携して、平素からの連携



復興に向けた取組状況の報告

「災害公営住宅の取組」

東 健一 主査(県土整備部建築住宅課)【大阪府派遣応援職員】

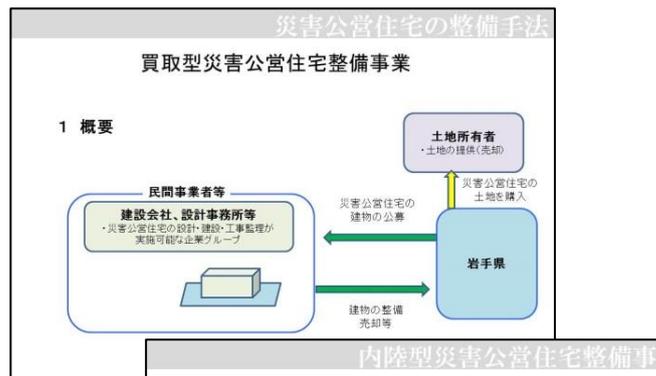
災害公営住宅の早期整備に向けた取組や、今後の管理の課題、台風第10号での応急仮設住宅整備などについて、大阪府からの派遣職員として、凍結防止ヒーターなど北国仕様への驚きや、完成した際の喜び、現地方言との苦戦、台風災害での泥だしボランティアなど、様々な経験なども交え報告いただきました。



災害公営住宅の事例

県が建設した災害公営住宅の事例

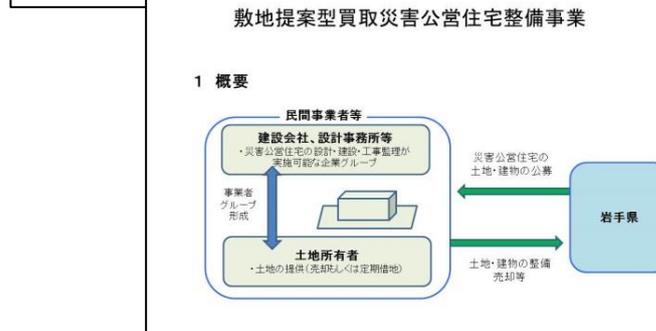
【陸前高田市柳ヶ沢地区】
構造 鉄筋コンクリート造
階数・戸数 8階建て301戸
管理者 県
入居時期 平成28年7月



災害公営住宅の事例

県が建設した災害公営住宅の事例(室内写真)

ダイニングキッチン 浴室



応急仮設住宅

台風10号による被害状況

岩泉町小川地区

全国からの応援職員の皆様

区分	年度	~25	26	27	28	計
岩手県庁へ		425	167	172	164	928
県内市町村へ		1,088	703	725	707	3,223
計		1,513	870	907	871	4,161

全国自治体からの応援職員数(単位:人)

2018年9月1日現在

復興に向けた取組状況の報告

「被災地における復興調査について」

伴瀬 宗一 上席文化財調査員【埼玉県派遣応援職員】

(岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課)

復興道路等の整備に当たり、事業用地に埋蔵文化財がないか事前に調査する業務について、事業を迅速に進めるため関係者と協議しながら進めていることや、遺跡からうかがえる当時の狩猟の方法など、その土地の歴史を整理し地元住民に知ってもらう機会でもあるといった報告がありました。



サンニヤ I 遺跡の発掘調査 (洋野町)



狩猟用の落とし穴 (シカやイノシシ用)

トークセッション

「学校、家庭、地域が連携して地域防災力を高めるためにはどうすればよいか」

森本 晋也 氏 (岩手大学大学院教育学研究科 准教授)

千葉 稔 氏 (地域防災サポーター)

高橋 弘子 氏 (洋野町立向田小学校 教諭)

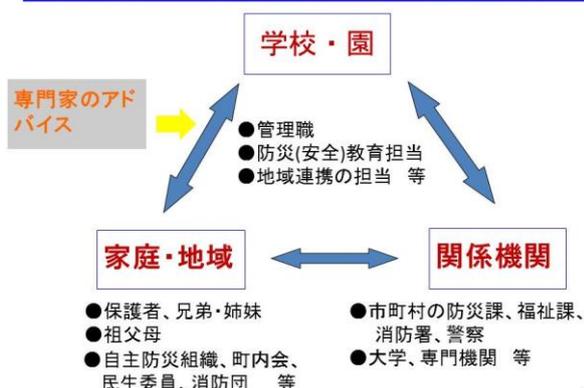
越野 修三 氏 (岩手大学地域防災研究センター客員教授)

学校・家庭・地域の連携した防災体制づくりの必要性について、各分野で取り組む方々による意見交換が行われました。

向田小学校の高橋先生からは、危険箇所現地調査や防災マップづくりなど、地域と小学校の連携を通じた防災の意識づくりの取組事例などが紹介され、地域防災サポーターの千葉さんからは、阪神・淡路大震災などで救助活動に携わった経験を踏まえ、地域で高い防災意識を持った人材育成が必要だという意見がありました。

越野客員教授からは、「学校・家庭・地域それぞれで取組が進められているが、それぞれの取組をいかに有機的に結びつけていくか。教育プログラムづくりの過程などを通じて、関係者が意見を交換する場をつくるのが大事。」と、普段からのコミュニケーションの重要性についてコメントがありました。

学校・家庭・地域・関係機関の連携・協働体制



県土整備部の職場紹介 No. 13

建築住宅課

県土整備部は、「県民から信頼される県土づくり」を目指して、各室課がそれぞれの役割を果たしています。各室課が取り組む課題や業務を毎月ご紹介します。

組織の概要

建築物の安全・安心（建築確認・耐震対策・ユニバーサルデザインなど）、岩手型住宅の普及、県営住宅の整備及び管理、建築士法・宅地建物取引業法に基づく登録及び指導、公共施設の設計・工事監理などの業務を行っています。

安全で安心な暮らしを支える社会資本の整備

- ・被災者のニーズに応じた災害公営住宅の早急な整備のほか、被災住宅の再建のため、建設費の補助や工事を請け負う工務店への支援など、被災者が安心して暮らせる住宅供給に取り組んでいます。
- ・応急仮設住宅の適切な維持修繕や、不要となった応急仮設住宅の速やかな解体撤去に取り組んでいます。
- ・地震に強い住まいづくりの普及啓発など、住宅の防災対策に取り組んでいます。



大船渡市下館下地区災害公営住宅（H28. 9月完成）

豊かで快適な環境を創造する基盤づくり

- ・災害公営住宅への移転後、新しい環境で速やかにコミュニティが形成できるよう、交流会開催などの支援を行っています。
- ・高齢者も生活しやすいバリアフリー化の推進や、環境に配慮し岩手県の地域特性も生かした岩手型住宅の普及、住宅・建築物の省エネ化など、良質な住宅供給に取り組んでいます。
- ・「岩手県公営住宅等長寿命化計画」に基づき、県営住宅の計画的・効率的な管理に取り組んでいます。



コミュニティ形成支援事業活動状況
（H28. 10月 県営栃が沢アパート）

適正かつ効率的な行政運営の実施

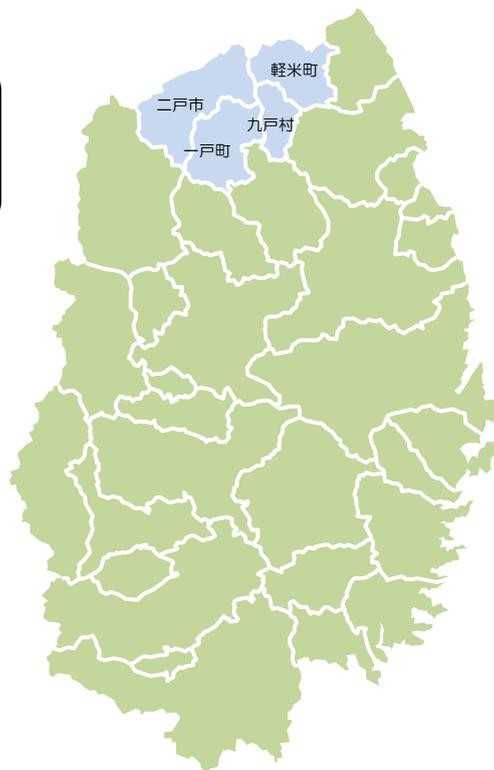
- ・適切かつ迅速に建築確認審査を実施できるよう、情報共有や研修による能力向上に取り組んでいます。
- ・違反建築物への指導等により、法の適切な運用に取り組んでいます。
- ・空き家や公共施設等を有効活用し地域を活性化するため、人材育成や公民連携の体制づくりに取り組んでいます。



いわてリノベーションスタディ（H28. 11月）

県土整備部の職場紹介 No.14

県北広域振興局土木部二戸土木センター



地域概要

二戸土木センターの所管区域は、**二戸市、一戸町、軽米町および九戸村の4市町村**で、北東北（青森・秋田・岩手）3県の中央部に位置しています。

管内の主な道路は、**八戸自動車道、国道4号、国道340号及び国道395号**のほか、主要地方道11路線、一般県道14路線であり、また、河川は、**一級河川馬淵川水系および二級河川新井田川水系**の17河川があります。

当管内においては、平成元年に東北縦貫自動車道が全線開通、さらには平成14年に東北新幹線二戸駅が開業したことにより、本地域の担う役割は大きなものとなり、**北東北3県の結節点**として重要な地域の一つとなっています。

組織体制

○平成28年度組織キャッチコピー

成し遂げよう、震災復興！つなげよう、魅力あふれる県北圏域の未来へ！

○組織の特徴

当センターの組織は、所長以下5課および1スタッフで構成され、職員数は、正職員27名と臨時職員等19名の総数46名の体制です。

今年度の主な取組

1. 一般国道395号赤石峠工区

一般国道395号は、内陸の二戸と沿岸の久慈を結ぶ県内最北端の横断道路です。復興支援道路として、赤石峠工区では幅員狭小、急カーブや急勾配となっている交通の難所を解消する改良工事を進めており、平成29年春の完成を目指して事業を進めています。

2. 一般国道340号駒板工区

一般国道340号は、岩手県内陸部の北上山地を南北に縦断する幹線道路であり、九戸村の駒板工区を含む区間は、地域の主要産業である養鶏業を支える物流路線であるとともに、生活道路としての役割を担っています。駒板工区では、幅員狭小、急カーブとなっている交通の難所を解消する改良工事を進めており、平成28年度末の完成を目指して事業を進めています。



3. 一般県道二戸一戸線荒瀬橋橋梁補修工事

一般県道二戸一戸線、現在の荒瀬橋は一級河川馬淵川に架かるコンクリートアーチ橋として昭和11年5月に竣工しました。歴史的にも貴重な構造物であり、周辺環境との調和、景観的にも優れていることから、「おいしいちゃん橋プロジェクト※1」の中の橋梁の一つです。

平成25年度に下部工の補修工事に着手し、平成28年10月に上部工の補修工事が完了しました。

※1 完成から60年(人でいう還暦)を過ぎ、歴史的価値が高く、景観に優れた橋の再生・修繕を進め、橋の存在や価値を県民の皆様にご存知いただく取組



石切所小学校の3年生を迎えて現場見学会を開催 (H28.9.7)

施工前

施工後

橋名	あらせげし 荒瀬橋
位置	二戸市石切所
橋長	71.8m
有効幅員	6.0m
径間数	3
形式	RC 開腹上路アーチ橋

独自の取組等

1. 道の日～奥州街道(蓑ヶ坂(みのがさか))を巡る～

国民に道路の意義・重要性について関心をもってもらうため、国土交通省は昭和61年に、8月10日を「道の日」と制定しました。以来、各地で様々なイベントが開催されています。

毎年、県北広域振興局土木部(本局、二戸土木センター)では、奥州街道の歴史の道を巡るバス&ウォーキングツアーを開催しています。平成28年度は、奥州街道の難所の一つであった、蓑ヶ坂を巡るツアーを開催しました。



蓑ヶ坂ウォーキングの様子

2. 木造住宅の耐震対策普及講座(出前講座)

県では、「安全」で「安心」できる建築物ストックの形成を図るため、既存建築物の耐震対策や防災対策等を推進しています。

これらの施策の一環として、小学校における木造住宅の耐震対策普及講座(出前講座)を開催し、次代を担う児童の防災意識づくりに取り組んでいます。